

2026（令和8）年3月2日

## 2025（令和7）年度関西保育福祉専門学校

### 第2回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第2回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要を報告いたします。

1 開催期日 令和8年3月2日（火）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校 2F 校長室

3 出席者

#### ■ 学校関係者評価委員

	氏名	所属等
1	高山 由香里	(実習先又は就職先等関係施設) 社会福祉法人 檜の木会 開明かしの木こども園 園長
2	丸山 和幸	(実習先又は就職先等関係施設) 社会福祉法人 三田谷治療教育院 芦屋翠ホーム 施設長
3	松本 敏尚	(地域の公立高等学校長) 兵庫県立尼崎高等学校 校長
4	波多野 靖明	(卒業生 保育科) 社会福祉法人あひる福祉会 山本南保育園 園長
欠席		
5	白井 彰人	(保証人) 保育科1年 保証人
6	松本 陽介	(保育分野における評価の専門家) 学校法人阪急学園 副理事長 いるか幼稚園 園長
7	中川 美琴	(保育分野における評価の専門家) 社会福祉法人 ふたば福祉会 汐江ふたば保育園 園長

#### ■ 学校教職員

	氏名	所属
1	本田 あけみ	校長、関西国際大学 社会学部 社会学科 教授
2	竹島 琢夫	事務局長
3	藤田 千波	学科長、就職委員長
4	榎本 優人	教務委員長
5	清水 智子	学生指導委員長
6	阪本 満	情報教育担当
7	平野 忠男	学校関係者評価委員会担当

## 4 概要

### (1) 校長挨拶

本田校長より、学生募集の現状や学園の再編について説明があった。2026年4月より東館の1階と3階が大学の「神戸山手キャンパス」となり、約80名の留学生が移転してくる予定である。また、生成AIの活用や実習でのあり方について、専門的な見地からの教示を求めた。

### (2) 協議事項

協議事項：2025（令和7）年度関西保育福祉専門学校 自己評価報告書（案）について

・学校側より、今年度の自己評価の経緯と各基準の評価結果が報告された。主な内容は以下の通りである。

#### 評価方法の変更：

今年度より教職員の評価回収に Microsoft Forms を導入し、デジタル化を推進した。

#### ICT活用の進展：

学習支援アプリ（ロイロノート等）の活用により、学生の紙使用量が導入前比で55%削減された。

#### 退学率の状況：

今年度の退学・除籍率は7.7%であり昨年度12.8%からは改善したが目標の5%には届かなかった。

**保証人連携の課題：**未登録や連絡不通の保証人が数名存在し、教員の精神的負担となっている。

#### 【委員の指摘・感想】

**ICT教育について：**高校側からは、教員が Forms 等を使いこなすことが学生のスキル向上に直結しており、紙の削減実績は素晴らしいとの評価があった。一方で、現場では PC よりスマートフォン（フリック入力）を多用する学生も多く、デバイスの変化への対応も検討が必要であるとの意見が出た。

**実習の柔軟性：**「実習を3日休むと不可」という現行の基準に対し、多様な学びを支援する観点から、補習や期間延長など、学生のモチベーションを維持するための柔軟な対応を検討すべきとの提案があった。

**保証人対応：**連絡が取れない保証人は「不適切」という評価基準ではなく、別のカテゴリーの課題（イレギュラーケース）として整理すべきではないかとの指摘があった。

### (3) 報告

報告事項1：2025年度第1回学校関係者評価委員会報告

・前回の会議録に基づき、自己評価の改善策やメンタルサポート体制（スクールカウンセラーによる教室巡回）の成果が共有された。

報告事項2：2025年度第2回教育課程編成委員会協議事項報告

・学生の資質向上、特に表現力や主体性の育成に注力する方針が示された。また、実習指導においては、子供の行動の背景を読み取る力の育成を強化する。

報告事項3：文部科学省教職課程実施視察に関する報告（2026年1月14日）

・オンライン形式での実地視察の結果が報告された。全体として良好な実施状況との評価を得たが、一部のシラバス修正や、図書室への小学校学習指導要領の整備などの指摘を受け、既に対応済みである。また、令和8年度以降、児童生徒性暴力防止法に基づき、入学前や実習前、就職時の性犯罪歴確認が義務化される方針が示された。

報告事項4：2024年度生就業状況及び2026年度学生募集について

**就職：**内定率は86%であり、認定こども園や保育所を中心に多岐にわたる進路が確保されている。

**募集：**高校卒業人口の減少や、大阪・兵庫での私学無償化の影響により、現役高校生の確保は非常

に厳しい。Instagram のフォロワー数が昨年度比 2.3 倍に伸びるなど SNS 戦略に手応えはあるが、今後は YouTube や TikTok の活用も強化する。

(4) その他

**地域貢献：** 尼崎市の花まち委員会への参加や、地域の清掃活動を継続している。委員からは、「学校の帽子や T シャツを着用して活動するなど、専門学校の学生が貢献していることをより可視化する工夫が必要」との助言があった。

**施設整備：** 校舎の老朽化に伴う雨漏り対応や、エアコンの更新（来年度予算）を順次進める。

5 今後の予定

- ・本会議の結果を反映した最終的な自己評価報告書および学校関係者評価結果を年度内に学校ホームページに公開する。
- ・次年度も引き続き、本委員の構成で評価を実施する予定である。

以上